

事業所における自己評価結果(公表)

討議年月日:令和 5年 3月 15日

公表:平成 5年 3月 25日

事業所名 儿童発達支援ファーストペンギン

チェック項目		はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	<input type="radio"/>			
	2 職員の配置数は適切である	<input type="radio"/>			
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	<input type="radio"/>			完全なバリアフリー化は出来ていない。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	<input type="radio"/>			
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	<input type="radio"/>		朝礼時にそれぞれの子どもたちの課題・終礼時に課題の報告をし今後の課題・改善点について話し合っています。	
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	<input type="radio"/>		評価表の意見を参考に改善をしています。	
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	<input type="radio"/>		HPより公開	
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		<input type="radio"/>		今後の課題である。
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	<input type="radio"/>		講師を呼んで定期的に研修をしています。リタリコ発達ナビによWEB研修を受講しています。	
適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	<input type="radio"/>		保護者からのアセスメントシート・アンケート、日々の活動記録を分析し作成しています。	
	11 子どもの適応行動の状況を把握するためには、標準化されたアセスメントツールを使用している		<input type="radio"/>		標準化されたアセスメントツールは使用していないので来期より活用予定です。
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	<input type="radio"/>		具体的な支援内容を設定している。	
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	<input type="radio"/>		計画に沿って支援をしています。	
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	<input type="radio"/>		チームで行っています。	
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	<input type="radio"/>		週ごとにプログラムを変更している。	
	16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成している	<input type="radio"/>		子どもに応じて、その日の体調に応じて設定しています。	
	17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	<input type="radio"/>		毎朝確認し、ボードに本日の活動を掲示し全ての職員が把握できるようにしている。	
	18 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	<input type="radio"/>		キッズノートと日報に記録し、気づいた点を話し合っている。	
	19 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	<input type="radio"/>		キッズノートにて管理	
	20 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	<input type="radio"/>		6か月ごとにモニタリングし、計画の見直しをしている。	

関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	<input type="radio"/>		児童発達支援管理責任者と担当職員が参画しています。	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	<input type="radio"/>		相談事業所と連携し支援を行っている。	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	<input checked="" type="radio"/>			対象外
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	<input checked="" type="radio"/>			対象外
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	<input type="radio"/>		必要に応じて情報の共有をしている。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	<input type="radio"/>		必要に応じて情報の共有をしている。	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	<input type="radio"/>		児童発達支援センターの作業療法士に週一で助言・研修を受けている。	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	<input type="radio"/>		ワークショップでは地域の子どもや利用児の家族も一緒に活動をしています。また公園等で地域の子どもも交え活動する機会も設けています。うらじやに参加。	
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している		<input type="radio"/>		自立支援協議会に次年度より参加します。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	<input type="radio"/>		キッズノート・LINE・電話・面談等で情報交換し、共通理解ができる。	
保護者への説明責任等	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	<input type="radio"/>		数か月に一度保護者向けの研修を行っている。	
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	<input type="radio"/>		契約時に行っている。	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	<input type="radio"/>		同意を得ています。	
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	<input type="radio"/>		送迎時、キッズノート、にて常に状況を伝え、LINE公式アカウントにて、悩み相談を常に受け付けています。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		<input type="radio"/>	定期的に保護者向けの勉強会を行い、そこに参加された保護者同士の連携を実施。	保護者向けの研修の後に保護者交流会を企画しているが、平日の昼間の為か参加者が殆どいないので、次年度は休日に開始予定です。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	<input type="radio"/>		相談・申し入れに対し迅速に対応。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	<input type="radio"/>		キッズノート・LINE・インスタグラムにて発信。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	<input type="radio"/>		十分注意しています。	
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	<input type="radio"/>		障がいのある子どもの意思疎通は言葉では理解できない子には視覚で理解できるように絵カード等を使用している。聴覚過敏の子どもにはイヤーマフを使用しています。	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	<input type="radio"/>		ワークショップでは地域の子どもや利用児の家族も一緒に活動をしています。	

	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	<input type="radio"/>	○		職員には周知しているが全保護者に周知てきてないので実施する。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	<input type="radio"/>		定期的に実施しています。	
非常時等の対応	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認している	<input type="radio"/>		契約時に確認。	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	<input type="radio"/>		保護者の指示に従っている。	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している		<input type="radio"/>		事例集を作成していないので、作成します。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	<input type="radio"/>		職員に周知。	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している		<input type="radio"/>	保護者に説明し支援計画に記載予定。	子どもや保護者に十分な説明ができないので実施します。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。